授業改善等に関する報告書（2021 年後期）短期大学部

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS（Lerning Management System）manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

［2021（後期）日本語コミュニケーション学科］授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
基礎ゼミ③	高瀬　真理子	シラバスの範囲ギリギリで産学連携事業にも加わるということになり、授業外にも行動してもらうことになりましたが、概ね、満足度は高かったようです。語ることばを見つけられたのが何よりでした。要約力も伸びました。
日本文学の歴史ｂ中近世	佐藤　辰雄	①殆どを対面で授業を行えた。授業を長めに行い、授業後にmanabaで課題提出という形態にしたが、授業には出ていても課題提出をしない学生も少数ながらいた。授業内に課題提出をしていた一昨年までにはない現象である。 ②学生本人としては、良く出席したし（Ｑ１）、事前事後学修も多く取った（Ｑ２）にも拘らず、教員の質に問題があって（Ⅱ）、理解（Ｑ４）と成長実感（Q11）が乏しいので、授業満足度（Q15）も低めとなった。自己採点（Q13）も3.67と低めなのはそうした自信のなさの発露だろうか。しかしこの分野を更に学びたいと望む（Q13）のは、作品や人々の生きるエネルギーを掬い取った結果とするなら、それは素晴らしい成果と言わねばならない。 ③アンケート対応の成績平均（Q14）は3.72とまずは平均的だったが、これは1年生の奮闘が大きい。大半が＋とＡだったのは、課題に適切且つ真摯に取組んだ結果である。さして点数にならない所感を500字ほど書き記す学生も珍しくなく、今まで学んだことを大いに超える情報を得たと総括する態度は教員への励ましとなる。
卒業研究ｂ③-2	大塚　みさ	ほぼ全員が「自身の成長が実感できた」と感じていることをうれしく受け止めました。「具体的に成長を実感したこと」については、ことばやコミュニケーションについての理解が深まったという学問的な回答のほか、情報収集力や課題解決力、研究を計画的に進める力、プレゼンのスキルアップ、レポートのまとめ方などが多くあげられており、この1年間での成長ぶりと2年間の集大成ができたことがが感じられました。 また、独自設問で尋ねた「他のメンバーの発表を聞いて勉強になったか、刺激を受けたか」についてもほぼ全員が「とてもよくあてはまる」と答えていました。授業形態についての回答は「対面」が圧倒的に多く、同じ空間を共有する協働学習の成果が見えました。 次年度も受講生の主体的かつ協働的な学びをサポートできる授業を目指して努力したいと思います。
ビジネスコミュニケーション	板倉　文彦	アンケート結果は、平均値を若干下回る結果となり、反省するとともに総体的にブラッシュアップする必要性を感じました。 フリーコメントから、知識・スキルを得て今後の行動に生かせるといった意見が複数ありましたので、今後はこれらの点をさらに伸ばせるよう改善を進めたいと思います。
点字の世界	西脇　智子	オンデマンド授業でしたが、授業に対する自己評価や成長を実感できたという評価もあり、大変励みになりました。 毎年、内容は変化していくことになりますが、説明の分かりやすさなど、次年度以降も工夫して取り組んで行ければと思います。
ライティングスキルb	鹿島　千穂	昨年度はZoom双方向授業でしたが、今年度は対面で実施することができました。対面の特性を活かし、教室内でインタビュー調査ができたことが一番の収穫でした。アンケート結果から、他の授業ではあまり経験したことがない「インタビュー」から学ぶことが多かったことがうかがえました。一方で、課題の提出期限をもう少し長くしてほしいという意見もありました。タイムマネジメント力を身につける一貫として、対応可能だと思われる日数で設定していましたが、次年度以降は配慮して授業を組み立てたいと考えています。
日本語コミュニケーション入門	西脇　智子	オンデマンド授業でしたが、多くの項目で平均を上回り、授業に対する自己評価が高かったこと、成長を実感できたことは、とても励みになりました。 毎年、内容は変化していくことになりますが、説明の分かりやすさなど、 高評価を得た部分について、次年度以降も工夫して取り組んで行ければと思います。
卒業研究ｂ⑤	鹿島　千穂	「この授業における週あたりの予習復習時間（レポート課題等含む）」が平均を大きく上回っていることから、みなさんがどれだけ多くの時間を卒業研究レポートの執筆に費やしたのかがうかがえます。メディアを知ることは、社会を知ることに他なりません。授業や自身の研究で得た知見を深めつつ、やり切ったことに誇りと自信をもって、次のステージに進んでいってください。
基礎ゼミ①	大塚　みさ	自己成長の実感についての平均値が大変高く、みなさんの意欲的な取り組みの様子が改めてうかがわれました。その根拠としては「レポート」「プレゼン」についての具体的なポイントがあげられており、2年次の「卒業研究」に向けた準備が整ったことがよくわかりました。予習復習時間が1.34時間と平均より長いことからも、一人ひとりの真摯な学習姿勢が実を結んだと感じられました。また、最後の自由記述欄には、グループワークの成果や、他の学生のプレゼンからの学び、相互評価の有用性などが書かれており、協働学習の成果がうかがわれました。 次年度もさらに改善を凝らして、よりよい授業を行えるように努力したいと思います。
企業と情報	板倉　文彦	アンケート結果は概ね平均値程度および上回る結果となりました。また、フリーコメントでは本科目の主題である企業と情報の連関について理解が深まったとの意見が複数見られ、いずれも安心できる結果となりました。 しかし「この科目をさらに専門的に学びたいか」においては平均値を下回る結果となったため、今後は学生の皆さんがさらに興味を持てるよう改善していきたいと考えています。

［2021（後期）日本語コミュニケーション学科］授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
詩歌の世界	宮木　孝子	オンデマンド型授業に消極的だった私ですが、皆さんからの回答でその長所を認識しました。 　次に回答者の予習復習時間（1時間～2時間以上）と自由記入のコメントの関連性です。履修しての成果に、詩の読解力が身に着いた、感性を磨けた、問題意識をもって課題に取り組めるようになった、多くの作品に触れて様々な視点から考えられるようになったということが実感をもって書いてあります。本当に、本当に嬉しく思います。これは、皆さんの努力の結果であると考えます。 前年度からの改善として付けた、青空文庫や美術関係のリンクも利用してくださり、理解を深めてくれました。詩が不得手の方も関心のある方も、真摯に毎回、作品と向き合い、感じ、考えることで、培った成果です。自信をもって下さい。 　私からの、反省点は、励みになったと書いてくださったコメントの返信が遅かったことです。しかし、多くの方がしっかり読んで、次回の理解につなげてくれました。毎回のコメントは、私の自己反省の参考となり、皆さんの授業への向き合い方がよくわかるので励みとなりました。 厳しいことも書きましたが、必ず伸びると信じ書いたのでお許し下さい。そして、「最終課題」」の字数制限は、しっかり書きたい方には厳しかったと思います。 　今後、もしオンデマンド型授業に出会うことになりましたら、皆さんからの評価を大切に、よりわかりやすい資料と動画作りと双方向の指導や意思表現の工夫を意識して行いたいと思います。 　それでは、皆さん、熱心な授業への参加、ありがとうございました。 宮木孝子
自己表現法④	西脇　智子	多くの項目で授業に対する良い自己評価や成長を実感できたという評価もあったことはとても励みになりました。毎年、内容は変化していくことになりますが次年度以降も工夫して取り組んで行ければと思います。
卒業研究ｂ②	高瀬　真理子	二名からしか回答が得られなかったので、コメントが難しいですが、より面白くなるように工夫していきたいと思います。
基礎ゼミ②	佐藤　辰雄	①大半が対面授業で文章執筆に関わる学修に集中した。高度な文章をたくさん読み、知識と思考・思索力の涵養を目指した。 　授業内容は5回の100字要約ドリル実習と、書物のあとがき・まえがきを紹介し解説する発表演習が中心だった。 　要約ドリルは解法に基づく草案作成作業までを授業内で行い、清書をmanabaで提出することとした。多くの学生が対応できたが、ほんのごく一部の学生が取りこぼすこともあった。 　発表演習では、発表に際しては自分の所属と名乗り以下、あくまでも公式の場面を意識するよう指導した。 ②スキルやビジネス学習とは異質な学修だったが、総体的に評価が高かった。授業理解(Ｑ４)や自己成長感(Q11)が高いから授業に満足した(Q15)、と直線的に評価した結果からか、普段になく配布資料(Ｑ９)や教員の声(Q10))評価が高いのは余得というべきだろう。自己評価も4.1(Q14)とかなり強気であった。 　要約力や文章力、発表について肯定的な感想が多く寄せられていた点に、その満足と自信が伺える。 ③教員の評価は3.89。彼女たちの自信と努力と能力に応えていないかのようだが、佐藤が担当する科目全体から見ると、高めの数字である。
データ分析入門	河野　康成	この授業は、オンデマンドという授業形態でしたが、パソコン操作だけに限ると、オンデマンドだけではなく、双方向や対面を取り入れた方が良いと考えている人が多いはずです。実際に、対面、双方向、オンデマンドの順で、操作性の効果は高いと思われます。しかしながら、パソコン教室とは異なり、大学の授業では、操作以上に、将来のために、考える力が必要となります。その意味においては、対面や双方向よりオンデマンドの方が身に着きます。また、質問については、通常だと、教員に直接もしくは一緒に受講しているご友人にできるため容易に解決できます。しかし、この授業では、メールやmanabaなど、普段使っているLINEでないため厳しかったかもしれません。メールは、社会人になったことを想定すると、役に立ちます。 　最も低かった項目が、説明のわかりやすさとなっています。この点について、学生さんからは、優しく丁寧に解説してほしいという希望があります。この点は、全大学で同様で、マニュアル型教育の弊害が要因の一つとなっています。ゆっくり丁寧に解説すれば、授業評価と同時に、学生の満足度も上がりますが、学生さんのためにはなりません。高校生までとは異なり、受動的ではなく、能動的に勉学に臨むことが社会でも必要とされています。それには、少しハードルが高く、それを乗り越える力を備えてほしいと期待しています。 　科目名がデータ分析入門にも関わらず、データ分析自体の難易度が高いため、難しいと感じられた人が多いと思われます。しかしながら、物事を考える枠組みの形成という観点から、今後の学生・社会生活で有用になることを意識していますので、そのようになってくれることを望んでいます。
コミュニケーションと心理	大塚　みさ	「具体的に成長を実感したこと」について、コミュニケーションの理論と実践の双方に渡る報告が書かれていたことを大変うれしく受け止めました。まさに授業のねらい通りだったからです。一人ひとりのコメントからは、みなさんの能動的な学びの姿勢が伝わってきて、大変感心しました。 独自設問で尋ねた「チーム学修」に関する意見は概ね肯定的で、協働学習の成果がうかがわれました。感想に加え、今後の就職活動や社会において活かしたいという意気込みも書かれてうれしく思いました。 今後の課題は2点あります。1点目は、グループワークに積極的に参加しない学生がいた場合の対処、2点目は課題の〆切日の設定です。受講生が学びやすい環境を整えられるよう、しっかり検討して次年度に活かしたいと思います。 授業での学びが、今後のみなさんの人生において役立つことを願っています。

［2021（後期）日本語コミュニケーション学科］授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
自己表現法②	佐藤　辰雄	①大半を対面授業で行った。学生からも対面の必要性を指摘する声が多いのも当然のことと思う。この授業ではmanabaを介在する課題提出等は最小限に留めたこともあって、未提出という残念な事態は殆どなかった。授業の内容は、中心を言語知識の増大と就活を意識した文章能力向上においた。 　言語知識の増大については、漢字と四字熟語学習を必須とする学科方針に基づき、やや高度な言語能力の涵養に努めた。敬語に関しても実践的な場面を想定して繰り返し言語化した。 　履歴書やエントリーシートの書き方を指導する際は、入学後の自己研鑽を分析しつつ、努力と成果を見つめる視点を重視した。 ②実践的な授業内容のこともあってか、総体的に評価が高かった。授業理解(Ｑ４)や自己成長感(Q11)、更に学びたいとの思い(Q13)が高く、授業に満足した(Q15)という声も多い。それが為か、普段より教員の説明が上手で(Ｑ７)、配布資料(Ｑ９)や教員の声(Q10))評価も高い。自己評価も4.1(Q14)とかなり強気であった。 　アンケート回答者の殆どが感想を好意的に記述する辺りにも満足度の高さが表れている。 ③教員からの評価は3.89(アンケート対応の数値)。佐藤が担当する科目全体から見るなら高い数字で、努力に報いたとの自負がある。事前学修をしっかり努める学生とそうでない学生とがくっきり分かれ、結果を平均するとこのようになっただけのこと、事前事後学修の努力を重ねた学生にとっては不満のない評価を得たことは疑いない。
自己表現法③	高瀬　真理子	外部から招いた講師が役員面接を実施する目線から話してくださったこともあり、自己表現のコツがなんとかつかめたように思います。自分を見つめる自分を語る、他者を見つめて他者を語ることから、その時々にどのように自分を語るのか、深く考えられたように思います。
基礎ゼミ④	西脇　智子	多くの項目で授業に対する良い自己評価や成長を実感できた評価があったことは励みになりました。 毎年、内容は変化していくことになりますが、良い評価を得た部分について、次年度以降も工夫して取り組んで行ければと思います。
卒業研究ｂ③-1	大塚　みさ	ほぼ全員が「自身の成長が実感できた」と感じていることをうれしく受け止めました。「具体的に成長を実感したこと」については、ことばやコミュニケーションについての理解が深まったという学問的な回答以上に、情報収集力や課題解決力、研究を計画的に進める力、プレゼンのスキルアップなどが多くあげられており、この1年間での成長ぶりが感じられました。 また、独自設問で尋ねた「他のメンバーの発表を聞いて勉強になったか、刺激を受けたか」についてもほぼ全員が「とてもよくあてはまる」と答えており、協働学習の成果が見えました。 次年度も受講生の主体的かつ協働的な学びをサポートできる授業を目指して努力したいと思います。
卒業研究ｂ①	佐藤　辰雄	アンケートの回答者が1名だったので全体的な像を描きにくいが、それ自体が学生の雰囲気を示していよう。 ①公的な場での発表に自信を持てるようフォルムを徹底させ、発表回数も3回課した。レポートを書くに際しての研究的なルールやマナーを口やかましく指導した。その結果、提出されたレポートは外部に出しても恥ずかしくない体裁を得た。内容やできに個人差があるのはいつも通りだが、学科誌に掲載できる秀作もあった。 ②本人は良く出席し(Ｑ１)、事前事後学修も他より2倍ほども頑張った(Ｑ２)のに、教員の質が悪く(Ⅱ)、授業満足度(Q15)も3.0と低くなった。その一方、古典や文章作成についての知識が身に着いたと記すのは慶事であり、教員の目指したことが一定程度浸透したらしいことが、この辛口学生の感想に示されている。それなのに自己採点(Q14)を3.00と認定する辺りは、心が相当揺れているからだろうか。教員の声がとても聞き取りやすかった(Q10)のは、小教室故に違いない。 ③今年のゼミ生は休む人が少ないので教員の意図が伝わりやすかったし、学生の代表者であるゼミ委員も良く学生の意見をまとめてくれた。教員からの学生評価(Q15)はアンケート対応の数値で、3.85とやや高めに出ている。
プレゼンテーション入門	鹿島　千穂	今年度は履修者が少なく、少人数授業となりました。その分、発表への個別フィードバックだけでなく、プレゼン計画書やレジュメの添削等にも十分な時間を割きました。履修者全員が「授業を通じて、自身の成長が実感できた」と回答していたことを嬉しく思います。プレゼンテーション力はみなさんの今後の学生生活や社会人生活で必ず役立つスキルです。授業で学んだことを活かして、活躍することを期待しています。
ヴォイストレ-ニング	鹿島　千穂	声を出すことが必須の授業であるため、感染症対策をとりながらの対面授業にはいろいろと気を遣いました。みなさんも規制が多い中、大変だったと思いますが、全員が「授業を通じて、自身の成長が実感できた」と回答していたことを嬉しく思います。音声表現は奥が深い世界です。この授業で興味を惹かれた人は、ぜひ今後も「声」を使った表現に意識を向けてみてください。
自己表現法①	大塚　みさ	自己成長を実感している学生が極めて多く、またその根拠も明確に記されている点から、自己分析力が十分に修得されている様子がうかがわれました。具体的に、就活関連の新聞記事要約、履歴書の書き方、発表などが役に立ったという声を聞いて、大変うれしく思いました。 PowerPointや資料の分かりやすさ、声の聴き取りやすさには重点を置いて授業を進めてきたので、満点の評価にほっとしています。とはいえ、これはみなさんの集中力の賜物でもあるので、今後もさらによい授業にできるよう、改善を重ねていきたいと思います。 最後の記述からも、グループワークやディスカッションから多くの収穫があったことがわかり、協働学習の成果が見えました。 4月からは進路を決める大事な学年になりますが、授業での学びを活かして健闘してほしいと願っています。

［2021（後期）日本語コミュニケーション学科］授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
女性文学	高瀬　真理子	作品読解の難しさと時代背景理解における現代との乖離を感じます。 しかし、模型を何か別のものに代えながら、Zoom授業でも対面でも対応可能なように整えて、女性の生き方の難しさや奥深さを忌憚なく語れる場として機能させたいと思います。
日本文学の歴史ｄ現代	高瀬　真理子	授業形態がZoom授業になったり、対面になったりで、なかなか安定して面白く資料を見せるという訳にもいかず、活字をどっさり見てもらうことになりました。加えて、プロレタリア文学が国家権力との闘争であり、弾圧でもあるので、内容としては、しんどかったかもしれません。しかし、難しいながら現代社会を考える上でも示唆に富むところを理解して欲しいと思います。
卒業研究ｂ④	板倉　文彦	アンケート結果は、全ての項目で平均値程度またはそれ以上を得ることが出来ました。 また、フリーコメントではレポート等を執筆する文章力や、プレゼン力が身に付いたとの意見が聞かれ、本ゼミでの目的が達成できたことに安どしました。 今後も、後輩が皆さんと同じように感じられるよう努力していきたいと思います。
情報と社会	板倉　文彦	アンケート結果は概ね平均値前後の値となりましたが、総合的な満足度の項目が平均値を下回ったことは反省点と捉えています。 また、本科目はオンデマンド授業でしたが、毎回出す課題は個人調査が必要だがそれに対して肯定的な意見が見られたことや、繰り返し視聴して復習しやすいといった意見が書かれており、オンデマンドでの実施メリットをある程度学生の皆さんも享受できたものと考えます。 今後は、平均値以下の項目を主眼にさらなる改善を進めたいと思います。
物語の世界	佐藤　辰雄	本科目に対する回答は１人なので全体像を伺えないが、回答数が少ない事実に学生の無言の評価が表れていよう。 ①大半が対面授業だった。授業を長めに行い、授業後にmanabaで課題提出という形態だったが、授業には出ていても課題提出をしない学生も少数ながらいた。授業内に課題提出をしていた一昨年にはない現象である。 ②Ⅱの教員評価に関わる諸問には最高評価をしつつ、休みが２回と多く（Ｑ１）、理解（Ｑ４）と成長実感（Q11）が程々なのは自省を踏まえた謙虚な姿勢というべきか。しかしこの分野を更に学びたいと強く望み（Q13）、自己評価が４.00点と高いのが（Q14）、受講して最高に満足（Q15）したからとするなら、その未来志向は重要である。 ③全体の欠席数が0.96と程々なのに、アンケート対応の成績平均は2.87と極めて低位だった。提出した課題内容の不調からＣ・Ｄ評価者がそれなりにいたことが大きい。